

新任者あいさつ



乳幼児総合支援センター
助産師
佐藤 亜由子

4月より乳幼児総合支援センター、助産師として入職しました。新規事業スタートの節目に採用して頂き、身の引き締まる思いでいます。

これまで医療機関で助産師、看護師として経験を積んできました。小児科のクリニックで育児等保育指導や母乳外来を担当し子育てに困りや不安を抱える母子のアフターケアを行う中で、児童福祉に携わりたいと強く思うようになり、その後4年間母子生活支援施設で母子支援員として勤務しました。DVを受けた母、虐待や子どもへの不適切な言動を受けた子どもがほとんどで母子ともに病氣や障がいを抱えており、支援内容は多岐にわたります。社会資源が得られ、多職種と関わり適切なサポートを受けることにより母子関係が再構築されていく過程をそばで見ている中でもっと早期に支援の手が差し伸べられていればと実感し、より子どもに近い施設で支援したいと思うようになりました。これまでの経験を活かしつつ、地域に根差した、温かく継続的な支援を目指し日々精進していききたいと思っています。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。



乳幼児総合支援センター
保育士
山路 理子

別府大学短期大学部初等教育科を3月に卒業し、4月から乳幼児総合支援センター栄光園で勤めさせて頂くことになりました。山路理子と申します。

私は元々子どもが好きで、保育士をしていた叔母が「子どもって本当に素直で可愛くて幸せな気持ちにしてくれるんよ」と楽しそうに話してくれた姿が魅力的で、小学校4年生の時に「私もこんな風になりたい!」と保育士を目指し始めました。

音楽の面では少しでも楽譜を読めるようにと中学・高校では吹奏楽部を続け、高校は「子ども・福祉コース」のある高校に進学。そして資格を取得するために別府大学短期大学部初等教育科に入学し、無事卒業することが出来ました。長い道のりではありますが、が一步一歩努力し夢の実現を目指してきました。

ずっと追いついてきた「保育士になりたい」という夢を乳幼児総合支援センター栄光園で叶えられたこと、大変嬉しく思います。

入職後の抱負は、子どもの気持ちに寄り添い合い、一人一人の個性を大切に、分らない時は先輩方のことどもとの関わりを参考にさせて頂きたい、質問したりしながら自分自身成長していきたいです。精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。



青山保育所
保育士
秋吉 優唯

4月より青山保育所で保育士として働くこととなりました秋吉優唯です。昨年の8月に青山保育所で実習をさせて頂きました。その際、私は「こういう保育者になりたい!」と思える憧れの保育者に出会いました。また職場の温かい雰囲気や子どもたちがのびのびしている姿を見て、私も子どもたちと一緒にたくさん経験の積み、共に成長していきたいと思い、就職しました。

この春に短大を卒業したばかりで、保育者としての経験が少なくまだまだ未熟ですが、自分の思い描く理想の保育士像に近づいて行けるよう先輩職員方にご指導いただきながら、日々の保育を精一杯頑張りたいと思います。

4月からうさぎ組への配属が決まったので、子どもたちにたくさん愛情を注ぎ、一人ひとりの思いや気持ちを尊重しながら、寄り添い、毎日笑顔で楽しく過ごしていきたいです。宜しくお願い致します。



青山保育所
保育士
原 美香子

4月から青山保育所で勤務させて頂いたでいる原美香子です。私は3月まで公立幼稚園で特別支援専任教

員として4年間勤務していました。青山保育所は障害児保育に力を入れ取り組まれているので微力ながらも幼稚園で学んだことを活かし、貢献できればと考えています。

今後の目標は0歳児担任となつたので、子ども一人ひとりのリズムを大切にしながら、愛着関係を作るとともに、安全に配慮し安心できる保育をしたいと思っています。また、子どもたちが毎日安心できる場所として登園できるように温かい雰囲気作りを心掛けていきたいです。そして、保護者の皆さんの悩みや困りに寄り添い信頼関係を築き、子どもの成長を見守る中で一緒に笑ったり遊んだりしながら園生活を支えていきたいと思っています。

また、先生方とのコミュニケーションを大切にして情報共有をしつかり取り、保護者の方々との連携を取っていききたいです。保育所勤務は初めてではない点も多々あるかと存じますが、ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

職員の動静

採用

● 乳幼児総合支援センター

佐藤 亜由子 (助産師)
山路 理子 (保育士)

● 青山保育所

秋吉 優唯 (保育士)
原 美香子 (保育士)

退職

● 児童養護施設

佐藤 桃佳 (児童指導員)

● 青山保育所

早水 有里 (保育士)
野口 保子 (保育士)

● 高橋みゆき (保育士)

児童養護施設

卒園おめでとう。

施設長 岡田 豊弘

3歳になる頃、父親に抱っこされて入所してきたAは、18歳で卒園していく2か月前、15年ぶりに父親との対面を果たせた。この対面をずっと願ってきたAの担当職員や私自身も感慨深い思いで、Aと父親のぎこちないやり取りを寄り添って見ていた。私が15年前、「いつでも会いに来てくださいね！」と父親に伝え見送ったのだが、叶わず15年の年月が流れた。あまりにも長い年月であった。

Aにとっては、父親の記憶もなければ、顔も知らないなかでの対面であった。Aは事前に父親に何を聞こうか考えたようだ。前の日は眠れなかったに違いない。対面での光景は、テレビで見るとは感動的で劇的な展開があるわけではなかった。Aは緊張しながらも淡々と「こんにちわ！」と父親に挨拶し、聞きたいことを、一問一答形式で尋ねる展開となった。Aが気を配って成長した現れであると私は感じた。Aが一番聞きたかったことを父親にぶつける瞬間があった。Aが一番聞きたいことは私自身何だろうかと考えた。するとAは、「お母さんはどんな人だったのですか？」と尋ねた。やはり、子どもにとって『母』は偉大なんだろう。

旅立つ児童より

私は生後半年から20歳までの20年間を栄光園で過ごさせていただきました。

基本は18歳で退所ですが、私の場合、高校を5年制の看護科に通っており20歳まで学校があったため措置延長という形で住まわせてもらっていました。看護科は私立しかないので私立一本で高校受験をさせてもらいました。私の夢を応援して5年間通わせてくれたことに感謝しています。高校3年間は、テストの教科が16教科あったり、3年生で臨時実習に行ったりととても大変でした。専攻科に上がっても実習は続き、職員さんには朝4時半にご飯を作ってもらったこともありました。

この一年間は実習終了後すぐに国試勉強に取り組み始めました。しかし思うようにはいかず投げ出したくなる日もありましたが、そんな時にホームの職員に限らず、通りすがりに声をかけてくれたり、差し入れを持ってきてくれたりする職員さんがいました。また子どもたちが応援の手紙を書いてくれることもありました。こうしたたくさんの方の応援のおかげで辛い国試勉強も乗りきることができたと思います。5年間通わせてもらったこと、高いお金がかかっていること、周りから期待されていること、これらが正直プレッシャーでした。国試本番も難しく泣きそうになりましたが、なんとか合格して4月から看護師として病院で働きます。私が5年間諦めずに学校へ通えたことも国試に合格できたことも、一人では絶対に無理だったと思います。職員さんや周りの人たちの支えや応援のおかげだと思っています。また、職員さんには本当に感謝しています。私にできる恩返しは看護師として一生懸命働くことだと思っていますので4月から頑張っていきたいです。

20年間ありがとうございました。

(F.A)

Aはこの春、栄光園を卒園し、病院で患者の食事をつくる仕事に就く。高校で調理師免許をとった。車の免許もとった。小学校時代、先生に呼ばれて私はAの教室に何度も伺った。Aは教室の後ろで数名の生徒らとサッカーをよくしていた。そんなAが立派に成長し、今を迎えている。Aを誇りに思うし、Aと出会うてくれた方々に感謝しかない。

卒園おめでとう。そしてありがとう。

おわりに、Aの母子手帳には、2歳までぎつしりと丁寧な字でAの成長記録が記載されていた。3歳に近づくにつ

れ、丁寧な字が乱雑になり、その後は空欄になっていった。もちろんAの母親が書いたものである。母親を擁護するわけではないが、一生懸命育てていたことが分かる記録であり、育児に疲れたことが分かる記録であり、早い段階でサポートがあれば、母子は離れずに済んだことがわかる母子手帳である。その母子手帳を持って、Aは施設を巣立っていった。

植樹会

2020年から始めた卒園生による植樹も今年で4本目となりました。

今年は、2名の児童が社会に旅立っていきます。卒園生、理事長、施設長、主任、担当職員でひとあきづつ土をかけて記念樹を植えました。

今回植えた「金柑」が実る頃には、卒園していく児童もきっと人生におけるおいしい実を実らせてくれていることでしょう。その日を楽しみにしています。大きくなった記念樹を見に来てほしいと願っています。



メイク教室

一般社団法人e Blossomの金谷英津子理事長に、今年度卒園して社会に羽ばたいていく女子児童のメイク指導をしていただきました。

メイクの基礎を丁寧に教えていただき、仕事に行く時のメイク、休みの時のメイクそれぞれを体験しながら教えていただきました。鏡の中の自分

が変わっていくのを嬉しそうに見つめながらメイクしていました。

メイクアップをして、毎日ポジティブな気持ちで過ごしてほしいものです。



送る会

今年度は、二名の児童が社会へ羽ばたいていきました。3月16日、二人の児童を送る会を行いました。

1部では、児童のこれまでの成長をスライドショーで振り返り、成長した児童の挨拶に思わず涙する職員の姿もありました。

2部では、これまで一緒に過ごしてきた児童や職員が集まり、有志による出し物などを見ながら食事をしました。別れを惜しみつつも旅立つ児童への励ましの思いの詰まった会食となりました。

二人とも頑張れ！でも、心が疲れたらいつでも一休みしに来てください。いつまでも



みんなが帰って来られる場所として在り続けられるような施設であるように、私たち職員も頑張っていけます。

乳児院

昼夜の寒暖の差はありますが、日中のポカポカな陽気が春を感じる今日の頃。チューリップの蕾も色づき始め、こどもたちは戸外遊びや散歩をいつも以上に楽しみにしています。

さて、乳児院は4月から『乳幼児総合支援センター栄光園』として、名称を変更し、新しい建物へ引っ越しをしました。これからは、地域に開かれたセンターとして、活躍してまいります。それでは、こどもたちの様子をのぞいてみましょう。

百日祝い



りすグループ保育士 宮田 奈美

百日祝いは、日本・中国・韓国において新生児の生後100日目に行われる行事です。日本では「お食い初め」「箸揃え」とも呼びます。「一生、食べることに困ることがないように」と赤ちゃんの健やかな成長を願います。生後100日前後に行うことから「百日祝い」と呼ばれます。初めての衣装や髪飾りに嫌がる姿はありましたが、写真を撮っている最中や、「Aちゃんこっち見て、可愛いね」と声を掛けられると、笑顔を見せていました。その後、母との面会があり、



祝い膳を前に母と写真を撮ったり、ご飯を食べる真似をしてお食いの初めを行いました。ご飯を口に持つていくと、口を開けたり、口を動かしたりしていました。

この「百日祝い」という行事を通して、Aちゃんや、乳児院に居るこどもたち、これからも元気に大きく、成長して欲しいと改めて感じました。

ひな祭り



うさぎグループ保育士 阿南 智江

3月3日に「ひな祭り」をしました。ひな祭りは、もともとこどもの健康を祈り災いを払う行事です。健康を願う気持ちは今も昔も同じですね。体だけでなく心も健康であるように、明るく楽しく過ごしたいと思っています。

女の子は髪の毛を可愛くアレンジし、着付けをしてひな壇の前で写真を撮りました。いつもと違う雰囲気戸惑うこどももいましたが、ヘアアレンジが出来ると職員に「○○ちゃん、可愛いね」や「座って待つのがとても上手だったよ」と褒められると、嬉しそうに笑っているこどももや少し照れながらも凛とした表情が印象的でした。



男の子もひな壇の前で写真撮影をし伝承行事を皆で楽しむことが出来ました。

退所前の思い出作り

ぞうグループ保育士 江川 遥

退所前の思い出作りとして、グループで園外保育を企画しました。こどもたちが思う存分遊べるように、普段は行くことのない、大分市まで足を延ばしてみました。数日前に園外保育の事を伝え、その日が待ち遠しいよう「○○ちゃんとお出かけする」と言って楽しみにしていました。

当日は、朝から気分が高揚していて、まだかまだかと出かけることを楽しみにしていました。大分市の佐野植物公園に行き、広いグラウンドを駆けまわったり、大型遊具で遊んだり、お弁当を食べたり、たくさんさんの笑顔が見られました。

園外保育後には「○○ちゃんと△△行った」と嬉しそうに何度もたくさん保育者に話す姿があり、とても満足している様子でした。

物心がつく頃に退所してしまうこどもたち。少しでも乳児院生活が楽しい思い出となり、こどもたちの心に刻まれるように、日々の生活を充実させていきたいと思っています。



青山保育所

昨年度を振り返って

主任保育士 二宮 孝介

2023年度の園内研修の内容として子どもたちに応答的なかわりをするを意識して保育をしてきました。応答的な保育は対話が中心です。子どもたちと対話をしながら遊ぶことで子どもたちは自分の思いに共感してもらったり、遊んでいるときのありのままの姿を認めてもらったりする経験を積み重ねてきました。設定保育の終わりには遊びを振り返って子どもたちと対話をします。保育園には、様々な年齢のお友だちがいるため一概に対話と言っても様々なパターンがあります。保育士がメインで振り返るもの、子どもたちと一緒に遊んで楽しかったねと確認するもの、子どもたちがその遊びをしてどのような気持ちだったのかを発言するもの、次回はどのように遊んでみたいか話し合うものなどです。その時に大切なこととして、子どもから発信された声を受け止めて優しく応えてあげるようにします。ありのままを認めてもらえる経験は子どもたちの自己肯定感の育ちにもつながります。子どもたちの情緒的な育ちを大切にするという意味でも引き続き子どもたちとの対話を続けていきます。

やってみよう！

保育士 荒金 由妃

身体機能の成長が目まぐるしいうさぎ組の0歳児のお友だち。園庭での築山登りや新しい遊具を補助なしで上り下りをするなど、目に見えて発達著しさを感じます。ある日、室内遊具の鉄棒を初めてうさぎ組に登場させると「わー！」と歓声を上げて周囲に集まってきました。園庭の鉄棒に慣れている数人の子ともたちは自ら手を伸ばしぶら下がろうとしますが、棒が低く足をぶら下げることができません。棒の高さを数段階に分けて高くしていくと、一生懸命手を伸ばし棒をつかみ、自ら身体を丸ませて数十秒の間、腕の力だけでぶら下がることができました。身長が足りず見上げていた子どもたちも保育士の援助で棒をつかむと、数十秒の間ぶら下がることができました。



成長の速さに驚かされることばかりですが、安全に遊ぶための環境づくりを考慮しつつ、成長に合わせて遊びの難易度を変化させていき、子どもたちの「もっとやってみよう」「もっとやってみよう」の気持ちを育んでいきたいと思いました。

おひなまつり！

保育士 渡邊 歩

節分行事の朝、「今日鬼が来ても泣かないよ!!先生写真撮っててね!!」という頼もしいお友だちもいました。が、いざ鬼が登場するとびっくりした様子で保育士の後ろに隠れたり、控えめに豆を投げたりする子どもたちでした。中には勇敢に豆をぶつけに行く子どももいました。

節分に登場した鬼はおどろかせてごめんなさい」と謝り、子どもたちと仲直りをしました。豆まきのあと、Mさんが「先生、Mちゃんも鬼さんに意地悪しちゃったね。(きつと豆を投げたこと)Mちゃんたちもごめんね言えばよかったね。」と言っていました。悪さをする鬼にも、豆を投げたことを謝りたいと思ったことに、共感する言葉を掛けました。Mさんの心の成長を感じた言葉でした。



あかりをつけましょぼんぼり

保育士 清原 里奈

ぞう組の5歳児のお友だちが、きりん組保育室に雛人形を飾りました。

「すくすく」と大きな雛段を間近で見上げ、写真を見ながら、「これはこいつ?」「お雛様が右だよ!」と協力しながら夢中になって飾っていました。完成を喜び、4歳児のお友だちにもお披露

目してみんな写真撮ったり、様々な飾りに興味を持ち、ぞう組に戻って保育士と一緒に由来や意味を調べたりする姿もあり、また一つ日本の伝統行事に触れる良い機会となりました。



ハサミでチョキチョキ

保育士 阿部 菜月

2歳児のお友だちはハサミを使う練習に取り組んでいます。ハサミの持ち方や紙の持ち方、切り方など、一人一人の様子を見ながら安全に配慮して行っています。まだハサミの持ち方がぎこちない子どもや手全体に力が入ってしまっている持ち方をしている子どもたちがい



ます。上手に持てるようになるには、スプーンを上手持ち(スプーンを上から握る持ち方)から下手持ち(スプーンを下から握る持ち方)に移行していくことも一つポイントになるようです。2歳児のお友だちの中にも上手持ちで持っているお友だちがいるので、日々の給食やおやつの際に下手持ちで食べ進めていくことができるように促しています。自分の思い通りに手指を動かすことができると、様々なことができるようになります。今後手指の発達を促すことができるような遊びを取り入れていきたいと思います。

野口保育所

主任保育士 末吉 佳奈

新しい年度が始まりました。今年度も職員一同気を引き締め、資質向上を目指し子どもたちが安全で楽しい保育が出来るようにしていきたいと思ひます。また野口保育所には保育目標である「子どもにとって毎日が楽しい保育」「食育を通して楽しく食事をする保育」「保護者が安心して預けられる保育」「地域との交流を大切にする保育」があります。そのために職員間での連携を大切に資質向上を目指し、お家の方に安心して預けてもらえるように笑顔忘れず頑張りたいと思ひます。今年度もよろしくお願ひ致します。

保育参観・まめまき

2月3日は節分の日！今年度は、保護者の方にも日頃の行事を見てもらおうと参観日の内容に行事を取り入れ、鬼役を保護者の方にお願ひしました。鬼を見てびっくりして泣いてしまう子、楽しくて笑ってしまう子…楽しい雰囲気、節分の日になりました。

6月からの子どもたちの成長した姿をご覧いただいたり、お家の方とお話をさせていただくよい機会となりました。



ひなまつり

ひなまつりに向け玄関に4、5歳児の子どもたちがひな人形を飾ったり、冠や烏帽子などの飾りや制作など各クラスで取り組みました。各クラスの制作の写真を玄関に飾り、お家の方にも見てもらいました。給食の先生が作ってくれたひなまつりの給食やおやつは子どもたちにも人気でよく食べていました。



避難訓練

3月に総合避難訓練を行いました。朝から雨が降っていた消防車の見学は出来ませんでした。消防署の方に来てもらおうとまた違う雰囲気の中お話を



して頂きました。避難する時の約束、先生の側を離れない、先生の話を聞く、等の話をしていただき、その後は子どもたちから質問をしたりと子どもたちは喜んでいました。

お別れ会

お別れ会第1部では、卒園する子どもたちの小さい頃の写真の紹介やインタビュー、卒園式で歌う曲をみんなの前で披露したり、みんなでプレゼント交換もして楽しい雰囲気の中で行われました。天気も良かったので、給食の

聖書の言葉

父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。

(ヨハネによる福音書15章9節)

別府不老町教会 牧師 尾崎 二郎

ハレルヤ！ イースター（主イエスの御復活おめでとうございます。イエス様の愛が、私たち一人ひとりを、信じる者とし、永遠の命へと導いて下さいますように。

最近、私はタフラブ（tough love）という言葉を知りました。タフラブとは、ベトナム戦争帰還兵のアルコール依存や暴力に苦しむ家族が「生きる術」として生み出した概念で、日本語では「手放す愛」「見守る愛」などと訳されています。相手が生きていくために、自分の持てる力をより発揮できるように、手を出さない、手を貸さないと

いうのがタフラブです。（『タフラブ 絆を手放す生き方』信田さよ子著、2022年）

詳しく読んでみたい御本ですが、私が驚いたのは、愛着といったことも愛の内に数えるならば、この地上で、「愛」の意味合いは随分と移り変わっていくものだなあとということです。

ここからは聖書の御話ですが、聖書が語る愛は、私たち人間が、その意味を考えたり、定義付けすることではありません。愛は、ただ神様から恵まれるものであり、私たちは、ただそれを受け取るだけなのです。人間に分かることは、神様から頂く愛は、この上ない幸

せであり、人間の理解を超えているということです。

使徒パウロは次の様に言っています。「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。」（エペソの信徒への手紙3章18〜19節）

とはいえ、愛は、相手との間で、実際に与え、与えられるものです。私たちは神の愛を頂いて、神を愛し、隣人を愛する者たちへと変えられます。イエス様は言われました。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。」（ヨハネによる福音書14章23〜24節）相手と、愛し愛される関係は、秩序を生み出します。

神の愛は、天地が創造された時からずっと変わることがありません。私たちは、自分の心と体を、主イエスにお委ねするとき、その愛を頂くことが出来ます。これを読んでいるあなたも、変わることはない本来の愛に、とどまってみませんか。

先生が作ってくれたお弁当を園庭でみんなと一緒に食べました。第2部では、お昼の時間を使って先生たちを交代でクラスに招待してお話をしたり、お家の人からの手紙を先生たちに読んでもらったりとすごく楽しい時間を過ごしました。



お別れ遠足

1年間一緒に過ごしたお友だちや保育士と一緒に別れ遠足をしました。4、5歳児クラスは、ラクテンチに行ったり、公園へ散歩に出かけたりと楽しい時間を過ごすことができました。お家の方が作られたお弁当も美味しそうに食べていました。



卒園式

今年度は3月30日に野口保育所にて、無事令和5(2023)年度の卒園式を行うことが出来ました。当日は、成長した子どもたちの姿に保護者の皆さんも感動し涙する中、16名の子どもたちが元気いっぱい巣立って行きました。幼稚園・小学校に行っても元気に頑張ることを願って、応援したいと思います。



地域交流事業 集いの場くるみ

地域支援担当 原田 康子

1月のくるみは、「防災についてみんなで考えよう」をテーマに防災の話を聞いた。地震体験車両に乗って地震の揺れを体験したり、人命救助のための行動を学んだり、水消火器を使って消火器の使い方を教えてもらいました。

別府市防災局防災危機管理課の清水様に別府市の防災についてお話していただきました。「もしここで災害にあつたらどうしよう」と考えてみるのが大切だと感じました。いざという時のために考えてみてはいかがでしょうか？

また、別府市の消防本部からは、地震体験車「ユレルンダー」、救急車、消防車の3台を手配して下さり、救急隊・警防課の方々に消火や救命の指導をしていただきました。

地震体験車で東日本大震災の120秒間の地震を再現した体験などもさせて頂きました。揺れが収まりかけたり、激しくなったりの繰り返し2分間です。実際このような地震が起きたらと考えると怖くなります。日本は、地震列島でもあることを忘れずにいたいと思いました。



私たち大人にとっては、有意義な体験でしたが、子どもたちにとっては、災害がイメージし

づらかったのかどこか他人事のような感じを受けました。実際の災害をイメージ出来るような働きかけが必要だったのではないかと反省しました。子どもたちにとってどのような防災訓練が望ましいのかを検討し今後に繋げていきたいと考えています。

2月のくるみは、eスポーツに触れよう「太鼓の達人に挑戦」と銘打って、ゲーム・太鼓の達人を楽しむました。初めてゲームをする子どもや、ゲームをし慣れている子どもなど様々な姿が見られました。



様々な経験の積み重ねが子どもたちの成長に繋がっているのかと考える毎日頑張っている子どもたちがリラックス出来る時間を作ってあげたいと思います。

3月の活動は、恒例のくるみコンサートを行いました。

第1部は、温泉たま子さんが楽しい手品を披露。そして、たま子さんと一緒に「デコピントリオ」として活動されている真重和子さんが、腹話術で楽しませていただきました。

第2部は音楽を楽しみました。ムーさん(斎藤さん)の懐かしい音楽、ハナミズキさんの春のメドレーをみんなで



歌いました。アットホームな温かいコンサートとなりました。

最後は、別府獅子舞保存会による縁起物の獅子舞を披露していただきました。元気な獅子に圧倒される子どもたちの姿も見られましたが、最後には「神が付く」という意味合いで頭を獅子にかなでもらい今年1年の無病息災を祈願していただきました。

アーティストの皆様と、地域の方々とも子どもたち、皆様のおかげで無事くるみのコンサートを終えることができました。皆様のご協力に感謝いたします。

コンサート後は昼食を摂りました。今回は、篠原欣子記念財団の「令和5(2023)年度フルーツ等支援助成」の助成金をいただきましたので、デザートにたくさんフルーツをいただきました。笑顔で食事を締めくくることができました。

ごはん応援プロジェクト

昨年に引き続き8月から3月までの期間、厚生労働省「ひとり親家庭等の子どもの食生活支援事業」の一環のごはん応援プロジェクトに参加することができました。

子育てに頑張っている保護者の方々や子どもたちに食料品、日用品、学用品などをお届けする事業ですが、皆様のお手元にお届けするためにたくさんの方々協力してくださいました。本当にありがとうございました。

これからも子育て中の保護者の方々や子どもたちのお力になれるよう心を尽くしてまいりますのでご支援、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たちの励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

【2024年1月1日より2024年3月31日まで】

賛助金

安部道人様 大分市
岩田智子様 大分市
上野貢一様 南さつま市
小郷晶子様 別府市
影山隆之様 大分市
木村洋子様 大分市
島田晋様 大分市
立花旦子様 大分市
田原明紀様 白杵市
田原陽子様 白杵市
永尾福康様 別府市
日本基督教団門司大里教会様 北九州市
日本基督教団杵築教会様 杵築市
別府教会様 別府市
山口産業(株)様 別府市

一般寄付

真愛幼稚園様 別府市
税理士法人アール様 大分市
壮年会様 別府市
日本基督教団別府野口教会様 別府市
原順子様 別府市
豊和銀行従業員組合様 大分市
匿名様 別府市
(有)豊田緑化 豊田憲生様 別府市
(医)ルミエール 歯科藤井茂仁様 別府市

自立進学資金

安東秀典様 大分市
梶原康弘様 大分市
堤峰子様 国東市

特別物品寄付

鉛筆 レトルトカレー (株)都留紙器工業所様
野菜 阿部真一(別府ロータリー)様
花の苗 imagine様
食品詰め合わせ (株)カーライフ大分様
衣類 川辺美穂様
乳児衣類靴 北江理実様
おもちゃ・マグカップ 桑原富貴子様
パン ココラート様
米 まえはら薬局 後藤正己様
小麦粉 須藤朋美様
お菓子 ダイアモンドグループ(株)様
野菜 高橋恵一様
桜(切り花) 竹内富美雄様
衣類・靴・鞆 立山愛様
折り紙作品 中井學様
サニールタス苗・肥料 中島生花様
みかん・お菓子・ボンカン 中山田正春様
ケーキ 和みsweets笑音様
ざぼん 南光物産(株)様
ラクテンチ入園券 西石油様
洋服 日本生命保険相互会社 大分支社様
甘夏 東藤信(民生委員)様
子どもへのプレゼント 福本陽子様
学用品(入学祝) 別府中央ライオンスクラブ様
みかん ステラベース様
トイレットペーパー トイレットペーパー
チャイルドシート 南荘園町 老人クラブ・恭寿会様
みかん 向寿子様
ひな飾り 麦の会様
洋菓子 門司一徹様
ラブリートテーブル 山本花織様
ティールームアンドデリ 黒木正道様
野菜・果物 二宮洋典様
ベビー服 COQUETTE(コケット) 帯刀沙樹様
ベビー用品 Cuddle up(カドルアップ) 藤川安優様
ベビー用品 庄司奈津子様
ベビー用品 石井重矢様
ベビー用品 三浦由加里様
ベビー用品 神田舞子様
ベビー用品 相濱貴和子様

招待・奉仕

ベビー用品 安東美沙紀様
ベビー用品 内山真里奈様
ベビー用品 佐藤奈緒様
ベビー用品 大園沙織様
ベビー用品 大野朋佳様
ベビー用品 大塚茜様
ベビー用品 是永真由美様
ベビー用品 大隅景子様
ベビー用品 金森賀恵様
ベビー用品 後藤由美様
ベビー用品 井村公留様
ベビー用品 迫田いづみ様
ベビー用品 奥中有希様
ベビー用品 田中香澄様
ベビー用品 三浦智子様
絵本 N.T.T印刷(株) 大分北営業所様
ベビー用品 明治安田生命 大分北営業所様
乳児肌着 佐藤尚子様
乳児肌着 友永優子様
乳児肌着 池田純子様
乳児肌着 安東秀典様
ベビー用品 元志佳江様
洋服・おもちゃ・紙パンツ・本 池邊春奈様
洋服 谷まい様
洋服 清水沙椰様
洋服・玩具 タオル・スリッパ 後藤美知子様
おしりふき 下郡和子様
洋服・オムツ 黒木理華子様
洋服 中村昌代様

ハンドマッサージ ハンドバードの皆様
散髪奉仕 west village 西村大輔様
散髪奉仕 beauty MORE 中村雄一様
散髪奉仕 hair salon Aiwa 立川奈美様
金曜学校 別府不老町教会 川野是様・尾崎二郎様
別府教会 別府野口教会 庄司宣充様
書道 荒金節子様
くるみ防災講師 別府市防災局防災危機管理課 清水様
集いの場くるみ 別府市消防本部の皆様
平川義文・平川順子・吉里風香様
コンサート出演 ボランティア 隈元聖蘭・衛藤志保様
齋藤正治様

編集後記

また今年も桜の季節がやってまいりました。1年が過ぎ去ったことを実感する季節です。栄光園も「乳幼児総合支援センター栄光園」がスタートし、また新たな一歩を踏み出します。多機能型施設となりますので、みんなで知恵を出し合って子どもたちの最善の利益を守り、みんなが幸福を感じられる社会となっていくよう尽力してまいります。ご支援、ご理解のほどよろしくお願いいたします。(原田)



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

郵便局での振込は左記までお願い致します。
口座名義 社会福祉法人 栄光園
口座番号 019300220748

賛助会員募集

年会費、一〇千円、但し、何口でも、分割可。
ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務局は、別府市南荘園町3組です。
賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。

ハナミズキ(田中真子・小田原千恵子)様
マジック 水田直子(温泉たま子)様
腹話術 真重和子様
別府獅子舞保存会 二宮誠様・永井雅人様
ごはん応援PJ
上野史子・山口智美・前田綾子・平川順子様
学習支援
安東秀典・井上せつ子・原優月様
メイク教室 e-blossom 金谷英津子様
「食育」合同奉仕活動 別府ロータリークラブ様